

連合獣医学研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	連合獣医学研究科の取り組みを示すポムチ絵（公表用1枚）
<p>基準4 学生の受入</p> <p>4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。</p> <p>4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。</p>	<p>入学者選抜の改善に繋がった取組</p> <p>○Native English speakerによる英語入試問題の確認と設問内容の一般性に関する作業を実施し、問題の適正化を図った。</p> <p>入学者数を改善するための取組</p> <p>○研究科の入学者数は31名で、入学定員（20名）の1.55倍とやや多めであったが、岐阜大学以外の3大学では最終受入れ学生（岐阜大学は平成30年4月が最終受け入れ）のため、やむを得ないと考えている。</p>	<p>平成29年度入学者在学者状況（資料1）</p>	
<p>基準5 教育内容及び方法</p> <p>5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程）</p> <p>5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）</p>	<p>単位の実質化を図るための取組</p> <p>○学際領域特別講義は、専門分野講義3コマ、連携機関の教員による専門外分野講義1コマ、国際医療情勢及び生物統計に関する一般基礎分野講義2コマで構成することで、広角的な視野の習熟に繋がった。</p> <p>○科学英語は、プレゼンテーション能力の向上を主眼に置き、プレゼンテーションの準備による授業時間外の学習時間の確保を図った。</p>	<p>学際領域特別講義プログラム（資料2）</p> <p>科学英語シラバス（資料3）</p>	
<p>基準6 学習成果</p> <p>6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。</p> <p>6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。</p>	<p>学習成果の向上に繋がった取組</p> <p>○学際領域、科学英語及び実践実習について授業後のアンケートにより、受講生の大部分が理解できていることが認められた。特に科学英語は、ジョイントワークショップ等で優秀賞を3名が授与され学習成果が向上していると考えられた。</p> <p>○修了生18名中10名が研究職、5名が大学教員に就き、研究科の目的である教育者及び研究者の育成を達成している。</p>	<p>科学英語授業アンケート結果、実践実習授業アンケート結果（資料4）</p> <p>修了者就職先一覧（ポムチ絵）</p>	
<p>基準8 教育の内部質保証システム</p> <p>8-1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。</p> <p>8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。</p>	<p>教育の質の改善に繋がる取組</p> <p>○研究不正が社会的に問題となり、新入生に対する研究倫理教育を特別講義（受け入れカリキュラム）で実施するとともに、CITI Japanのe-learningを全学生に義務付け続けている。</p> <p>○大学院生の教育・研究の指導面での課題を的確に把握するため、過年度生を指導する教員へ今後の計画の聞き取りを実施した。</p>	<p>講義概要（資料5）</p>	

平成29年度 連合獣医学研究科の教育改善 (基準4、5、6、8)

基準4 学生の受入

- 大学院の外国語入学試験問題の改善
- 入学者数の適正化

- 獣医学を通じて社会貢献に意欲を有する人
- 獣医学やそれに関連した諸科学に関して研究心を有する人
- 獣医学やそれに関連した分野で技術の向上に意欲のある人
- 獣医学を基盤に、国際貢献に意欲のある人
- 獣医学に関連した諸学問に興味があり、自らの専門性を探求したい人

入学試験委員会
入試関係を担当

代議委員会
(各大学2名、計10名で構成)

基準5 教育内容および方法

- 研究科提供講義の広角化
- 多様な講義および演習手法を導入



学際領域特別講義(岐阜大学発信)
(各大学) 実践実習



基準6 学習成果

- アンケートに基づく内容の改善と学習成果を確保
- 大学院修了後の就職状況

基準8 教育の内部質保証システム

- 研究不正のための研究倫理教育
- 大学院生の教育・研究の指導面で実態把握

【平成29年度修了生就職先】

Kabul University, Faculty of Veterinary Science	Assistant professor
Kabul University, Faculty of Veterinary Science	Assistant lecturer
Chinag Mai University, Faculty of Veterinary Medicine	Teacher
塩野義製薬株式会社	研究職
アステラス製薬株式会社	課長代理
北海道大学理学部	博士研究員
名古屋市立大学	助教
シミック株式会社 ファーマコヴィジランス	事務職
株式会社富士薬品 第二研究所 医薬事業本部	主任研究員
岐阜大学大学院連合獣医学研究科	特別協力研究員
Damanhour University	Associate lecturer
パーク動物病院	獣医師
地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所	研究員
岩手大学	研究員
北海道立総合研究機構 根釧農業試験場	研究職員
京都大学大学院医学研究科	特別研究員(PD)

岐阜大学連合大学院
研究科委員会
研究科の管理運営を担当

過年度生

- ・社会人学生が主体
- ・年度初め13名
- 3名修了
- 新たに5名

到達目標

- ・知識と技術力
- ・研究能力と研究倫理観
- ・表現力とコミュニケーション力
- ・国際貢献
- ・社会貢献力と倫理観